

AI時代の働き方改革とは？



日本証券アナリスト協会 常務理事
渥美 恭弘

今、AIはものすごい勢いで進歩しているのだろう。昨今のコロナ禍もあり、デジタル化が一気に進み、その最先端としてAIがいたるところで導入されているようだ。今でも毎日、AIの新製品開発や活用についてのメディア報道が相次いでいる。一時は「第3次ブーム」で終わるだろうとも言われたが、今や誰もそんなことは言わなくなった。世界のAI市場の総売上高は2024年までの5年間で年平均17.5%伸び、2024年には約60兆円になるとの予想もある。本格的なAI時代を迎えているのである。

以前は、AIは人間の職業を奪うのではないかと、いわゆる「シンギュラリティ」が到来し、AIが人間を支配するのではないかと、といった「AI脅威論」が強く、ネガティブに見る傾向が強かった。しかし最近では、むしろ「AI歓迎論」が強くなったように思う。人類の可能性を広げてくれる良き相棒といったイメージができてきたようだ。人間は、AIができることはすべてAIにやらせ、その結果を利用して仕事をし、共存すればよいのである。これまでの技術革新による失業、例えば、産業革命で製造業に機械が導入されて熟練工が不要になったとか、20世紀に入りパソコン等のオフィスの機械化で定型的な作業が削減されたなどという「技術的失業」と、今回も何ら変わらないことが分かってきたということではないだろうか。2013年に「雇用の未来」というオズボ